



第 36 号

2011年 6月 20日

発行者 車田孝夫
発行所 栃木県立大田原高等学校
紫塚同窓会
印刷所 飯村印刷所



総会	2
支部だより	4
十年会	6
母校の近況	8
活躍する若手	10
定期演奏会	11
52年ぶり優勝	12
応援団	15

百十周年に向けて

同窓会長 車田孝夫

去る3月11日の大地震の際には、同窓生の皆様のうちにも、被災された方が数多くおいでだと聞き及んでおります。ここに、謹んでお見舞い申し上げます。

さて、今年度の紫塚同窓会総会は、去る5月14日(土)に、母校の会議室で開催され、同窓会常任理事会であらかじめご了承いただいた提出した案件をご審議願ひ、最終的に、すべて原案通り御承認を得ることができました。会議の詳細については、本会誌の2、3ページをご覧ください。

正副会長・監事の改選の件では、創立百十周年を控えて、前年度までのメンバーで継続して任を全うすべしとのご提案があり、この度、選任された監事も加わり、まずは創立百十周年に向かつて再出発することになりました。

さて、従来どおり、課題や業務の内容によって各副会長が役割を分担し、会の活性化、財務、十年会の在り方などについて検討すると同時に正副会長・監事会でも折に触れて、それぞれの考えを述べて論じ合うことをいたしました。

幸いに、会の運営上は、財務の問題を別にすれば、然したる難問もなく一年が過ぎましたが、これも会員の皆様のお陰と感謝申し上げます。

これからは新しい気持ちで紫塚同窓会の尚一層の活性化と母校の教育活動の支援に取り組み所存です。どうぞ変わらぬご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、総会が、予定していた市内の会場の被災、頻発する余震、それに「自粛」ムード等のために、例年行われていた栄典

者祝賀会をも含めて、いつもと異なった形になってしまったことや、年度末の行事のいくつかも、中止ないし延期あるいは変更を余儀なくされたことで、会員の皆様には、なにかとご不便やご迷惑をおかけしましたが諸事情ご賢察の上、ご容赦くださいますように。

創立百十周年事業等に関しましては、目下、PTAと一緒に創立百十周年記念事業実行委員会種々検討を重ねているところ。伝統ある母校の更なる

52年ぶりの快挙

学校長 森島堅 二

東日本大震災の余震が残る中、被災地の日も早い復興を願ひながら、第64回春季栃木県高等学校野球大会が開催されました。本校野球部は、21世紀杯の最終選考に漏れた悔しさをバネに、一回戦から快進撃を続け、私立の強豪校を次々と破りながら、決勝へと駒を進めました。決勝の文星芸大附属高との対戦でも、

飛躍のために会員の皆様のご協力をお願いいたします。

今年度も十年会が賑やかに開催されますように、該当年次の皆様が多数参加されることを楽しみにしています。

また、各支部の益々のご発展をご期待申し上げます。会報発行に際しての御挨拶といたします。

最後に申し上げますが、校長先生はじめ事務局の皆さんには大変お世話になっております。感謝申し上げます。



位置につくのは、次のバッターを確認して守備位置を変えたり、ピッチャーの球をしっかりと見たりするためだ」と指導されているという話をしたことがあります。この「一つ先のプレーを考えた全力疾走」が、チャンス逃さず着実に得点を重ねたり、大事なところで相手の勢いを止める併殺プレーが飛び出したりして、劇的な勝利につながったものと思います。

平成23年度総会

5月14日(土)、紫塚同窓会総会が、母校会議会で開催された。ここ数年、市内・結婚式場での開催が続いたが、3月11日に発生した東日本大震災の影響等を考慮し、栄典者祝賀会を行わず総会のみとなった。当日は52年ぶりに出場した高校野球関東大会と重なり、手分けしての総会になったが、多数出席された。車田会長の挨拶に続き、黒崎教頭先生から母校の現況等が報告された。

例年通り過年度の事業報告、会計報告、監査報告及び新年度の事業計画、予算が審議され、原案通り可決承認された。

本年は正副会長・監事の改選期にあたり、審議の結果次のように改選された。任期は3年。

- 会長 車田孝夫(高3回)留任
- 副会長 大島栄寿(高6回)留任
- 小林 惺(高7回)留任
- 青木 勲(高9回)留任
- 井上成紀(高12回)留任
- 篠崎勝則(高14回)留任
- 増淵忠行(高16回)留任
- 神島仁誓(高24回)留任
- 後藤秀雄(高11回)留任
- 伊藤和夫(高21回)新任

同窓会総会の新聞広告、特別会計の目的、杉並木基金、学校林についてのほか、今回の高校野球の寄附や強歩に対する感想など、活発な意見が出された。引き続き、過年度の栄典者及び当選者に対し車田会長からお祝いの言葉と、会則に従い祝いが贈られた。

叙勲者(皆さん瑞宝及光章)

- 五味淵三郎(中35回)教育功労
- 大柿 勝(高8回)警察功労
- 益子 禮三(高8回)警察功労
- 稲垣 和恵(高10回)警察功労
- 磯 基守孝(高11回)消防功労
- 永倉 成志(高11回)消防功労
- 当選(栃木県議会議選挙)

常任理事会

- 中川 幹雄(高21回)
 - 相馬 憲一(高28回)
 - 山口 恒夫(高34回)
 - 齋藤淳一郎(高43回)
- 【敬称略】

平成23年2月18日(金)母校会議室で開催。出席者も増え、活発な意見が出された。

会議では例年通り同窓会総会にかける案件を審議した。

「十年会」に、例えば65歳を超えたら十年会該当年次でなくても参加可能な形態に改められないか。ホームページの開設や、会報が読まれている状況調査をしてはどうか。倒木したニワウルシの後継樹を植える考えはないのか、などの意見が出された。執行部から、十年会の改革やホームページの開設は前向きに検討したいが、記念植樹は難しい環境にあるとの説明があった。経費削減と活性化のため、代表常任理事を中心に各年次の連絡網整備などの提案もあった。正副会長・監事の改選について、現体制で百十周年記念事業をしつかり遂行して欲しいとの意見が出された。

監事1名の欠員補充として、高21回伊藤和夫氏が承認された。

平成22年度各支部総会等報告

- 5月22日(土) 紫塚同窓会矢板支部総会
矢板イースタンホテル
- 7月2日(金) 県庁紫塚同窓会総会
ニューみくら
- 7月16日(金) 紫塚同窓東京会役員・幹事会
品川プリンスホテル
- 10月16日(土) 紫塚同窓会ゴルフ大会会長杯
那須黒羽CC
- 10月23日(土) 近畿紫塚会総会
魚佐旅館
- 11月5日(金) 紫塚同窓東京会総会
グランドプリンスホテル赤坂
- 11月13日(土) 小川地区紫塚同窓会総会
みづ乃
- 3月10日(木) 宇都宮紫塚同窓会総会
ホテル丸治

平成22年度紫塚同窓会事業報告

- 4月19日(月) 第108回創立記念式典
(記念講演講師:高6回 永田一郎氏)
- 4月19日(月) 監査(後藤・加藤監事)
- 4月28日(水) 第1回正副会長監事会
- 5月7日(金) 総会及び十年会第1回準備会
- 5月15日(土) 総会及び栄典者祝賀会
- 6月20日(日) 同窓会報第35号発行
- 7月28日(水) 十年会第2回準備会
- 8月15日(日) 第57回十年会
(中44、高2、高12、高22、高32、高42、高52回)
- 10月14日(木) 第1回創立110周年記念事業実行委員会
- 11月18日(木) 同特別委員会
- 1月21日(金) 第2回正副会長監事会
- 2月18日(金) 常任理事会
- 2月28日(月) 同窓会入会式(高63回、235名)

同窓会本部 ホームページ

- ・紫塚同窓会のホームページを開設します。
URL: <http://www.muradou.sakura.ne.jp>
機能重視、シンプル(質素堅実版)です。
是非ご覧下さい。
- ・お問い合わせ、ご意見などは下記まで。
e-mail: daikol@muradou.sakura.ne.jp

一般寄付の御礼

財務状況が思わしくなく、改善に頭を痛めています。終身会費制度による会費収入も頭打ち。繰越金が年々減少しています。

このような中、多くの方から総額32万円の篤志寄付(一般寄付)を賜りました。紙面をお借りし、改めて御礼申し上げます。

引き続き多くの会員の皆様からの一般寄付をお願いしたいと存じますので、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

平成23年度紫塚同窓会一般会計予算

1. 収入

項目	本年度	前年度	増減	備考
前年度繰越	1,086,482	1,483,094	△396,612	
入会金	2,350,000	2,380,000	△30,000	平成22年度卒業生の入会終身会費
会費	550,000	700,000	△150,000	同窓生の終身会費
寄付金	200,000	100,000	100,000	寄付金
雑収入	613,518	516,906	96,612	会報の広告料、利息等
合計	4,800,000	5,180,000	△380,000	

2. 支出

項目	本年度	前年度	増減	備考
創立記念費	230,000	200,000	30,000	講師への謝礼、米資昼食等
総会費	200,000	200,000	0	新聞への広告掲載、案内業書等
十年会費	500,000	500,000	0	案内状の郵送、通信業書等
会議費	50,000	100,000	△50,000	常任理事会等の経費
通信費	50,000	50,000	0	常任理事会の案内業書等
会報	1,450,000	1,400,000	50,000	会報の印刷・郵送等
卒業褒賞補助	100,000	100,000	0	卒業証書ホルダー代金の補助
母校活動補助	600,000	600,000	0	
慶弔費	450,000	450,000	0	祝い金、香典等
支部会等補助	450,000	450,000	0	支部会・同期会への補助金
旅費	300,000	330,000	△30,000	支部会・同期会出席に伴う交通費等
事務費	50,000	100,000	△50,000	消耗品等
事業積立	240,000	240,000	0	110周年に向けての積立
雑費	50,000	70,000	△20,000	郵便振替手数料等
予備費	80,000	390,000	△310,000	
合計	4,800,000	5,180,000	△380,000	

平成23年度紫塚同窓会事業計画

- 4月19日(火) 第109回創立記念式典
- 4月19日(火) 監査
- 5月14日(土) 同窓会総会
- 6月1日(水) 十年会準備会(第1回)
- 6月20日(月) 同窓会報第36号発行
- 7月28日(木) 十年会準備会(第2回)
- 8月15日(月) 第58回十年会
- 随時 正副会長監事会
- 平成24年
- 2月下旬 常任理事会
- 2月29日(水) 同窓会入会式(高64回)

inoue 井上眼科医院

井上成紀(高12回)

〒324-0051 大田原市山の手1-2-11
☎0287-22-2514

平成22年度紫塚同窓会一般会計決算報告

1. 収入

項目	予算	収入	増減	備考
前年度繰越	1,483,094	1,483,094	0	
入会金	2,380,000	2,380,000	0	平成21年度卒業生の入会終身会費
会費	700,000	550,000	△150,000	同窓生の終身会費
寄付金	100,000	320,750	220,750	一般寄付
雑収入	516,906	675,906	159,000	会報の広告料、利息等
収入合計	5,180,000	5,409,750	229,750	

2. 支出

項目	予算	支出	残額	備考
創立記念費	200,000	214,760	△14,760	講師への謝礼、米資昼食等
総会費	200,000	226,480	△26,480	新聞への広告掲載、案内業書等
十年会費	500,000	458,355	41,645	案内状の郵送、通信業書等
会議費	100,000	6,576	93,424	常任理事会等の経費
通信費	50,000	47,090	2,910	常任理事会、110周年案内業書等
会報	1,400,000	1,434,407	△34,407	会報の印刷・郵送等
卒業褒賞補助	100,000	100,000	0	卒業証書ホルダー代金の補助
母校活動補助	600,000	600,000	0	強歩反射標、ピッケル等
慶弔費	450,000	335,720	114,280	祝い金、香典等
支部会等補助	450,000	420,000	30,000	支部会・同期会への補助金
旅費	330,000	215,585	114,415	支部会・同期会出席に伴う交通費等
事務費	100,000	10,595	89,405	消耗品等
基金積立	240,000	236,000	4,000	110周年に向けての積立
雑費	70,000	17,700	52,300	郵便振替手数料等
予備費	390,000	0	390,000	
支出合計	5,180,000	4,323,268	856,732	

平成22年度紫塚同窓会特別会計(基金)決算報告

収入額	21,437,217	繰越金、預金利息
支出額	0	
残額	21,437,217	

平成22年度紫塚同窓会110周年記念事業積立決算報告

収入額	711,183	繰越金、基金積立、預金利息
支出額	0	
残額	711,183	利息

平成23年度各支部総会

- 紫塚同窓会矢板支部総会 5月21日(土)
矢板イースタンホテル
- 県庁紫塚同窓会総会 7月5日(火)
- 紫塚同窓東京会役員・幹事会 7月16日(土)
品川プリンスホテル
- 近畿紫塚同窓会総会 10月22日(土)
- 紫塚同窓東京会総会 11月4日(金)
品川プリンスホテル
- 小川地区紫塚同窓会総会 11月12日(土)
- 宇都宮紫塚同窓会総会 平成24年3月

支部だより

紫塚同窓東京会

副会長 春原正三郎(高20回)
 第58回東京会総会が2010年11月5日(金) グランドプリンスホテル赤坂にて開催された。東大教授・溝口勝氏(高30回)の「食の安全と生産者を守る農地の情報モニタリングシステム」の講演は、プロジェクトを交えて理解しやすかった。総会では会長挨拶、会員活動名簿作成報告、事業・財務報告、監査報告、新執行部役員案(会長、副会長15、監事2)等が承認された。懇親会では、本部車田会長、森島校長、大女高千草会山本東京支部長、みんなの党渡辺喜美

代表を始め、多くの来賓からごあいさつをいただいた。

恩師渡辺光男先生(高11回卒、国語担当、テニス部顧問)を囲む卒業生が多く出席した。懇親会への参加は、昭和22年卒業から平成の卒業生まで、広範囲であった(110余名)。先輩方は、現役で活躍する後輩の姿を見て刺激を受けたようで、うれしそうに歓談されていた。総会のみでなくゴルフ会や異業種交流会も開催されているので、こちらにも是非参加したい。

母校の選抜21世紀杯のエントリーされた野球部の活躍は卒業生として嬉しい限りであった。それに加え神奈川大の小堀佑真君、東京学芸大の斎藤勇人君が正月の箱根駅伝にエントリーされ、特に神奈川大の小堀君は復路7区で区間5位の立派な成績で、テレビには出身校大田原高校の名が出た。また、都道府県対抗駅伝大会では順天堂大の的場亮太君が3区に出場、栃木県初優勝に導いた。

創立百周年を迎えるにあたり東京会は一致協力し、母校発展のため活発な活動を致します。ささやかですが母校のスポーツ振興を応援します。

会長 大島栄寿(高6回)
 五月晴れの5月19日、第19回

紫塚同窓東京会「春のゴルフ会」が千葉夷隅GCで実施された。大震災の余韻もあって、やや少ない18名が参加された。母校野球部の52年ぶりの県大会優勝を祝い、関東大会出場と、この夏、甲子園出場を目指すために少しでも支援しようと参加者一人千円のチャリティー等で、ささやかですが3万8千円の寄付金が集まりました。



近畿紫塚会

会長 八木沢武雄(高10回)
 75回の歴史ある近畿紫塚会。大阪府、滋賀県、京都府と巡回しながら会を重ね、節目の今年

は奈良県が会場になりました。平城遷都1300年記念行事があり、会場や宿泊場所の確保が出来るかどうかが今回のポイントになるのではと、切なる思いで4月4日から準備に掛かりました。

8名の役員が近鉄奈良駅に集合し、猿沢池の南に位置する「魚佐旅館」に打診した結果、了承が得られました。此処は毎年高校ラグビー選手権で栃木県代表「國學院栃木高校」が宿泊する旅館で、激励会に何度か訪れたことがある馴染の場所です。



第75回近畿紫塚会・千草会近畿支部合同同窓会

平成22年10月23日、魚佐旅館で開催。紫塚同窓会本部から車田会長、森島校長、田代先生、千草会から堀江会長代理、川俣大女高校長、東海林先生が参加されました。近畿紫塚会13名、千草会近畿支部2名、近畿地区

大学生4名が参加しました。車田会長から百周年記念事業に向けた名簿発行等の状況説明があり、森島校長からは平成23年春の選抜高校野球選手権に21世紀杯で選ばれようである旨の話があり、出席者一同大いに盛り上がりました。今回渡辺真也君が大学院を卒業され、大阪に本拠地のある会社に就職。今後大いに活躍されんことを期待しています。

親睦ゴルフ

近畿紫塚会有志によるゴルフを3回実施。4月13日、六甲カントリー、5月17日、随縁カントリー、9月2日、アリジカントリーで楽しんだ。

第9回紫塚GFクラブ大会には、近畿紫塚会より西岡尊氏(高7回)八木沢の2名が出場。故郷でのプレーは何物にも代えがたい強い印象が残りました。

プライベート旅行

前述の紫塚GFクラブ大会と一緒に回った同級生の池田千尋君、大野庚君と高校の修学旅行の「やりなおし旅行」をしようと話が纏まり、11月4〜6日、和歌山県白浜温泉、奈良市の平城遷都1300年記念会場を訪ねたのです。

大田原高校の益々の発展を祈り、千草会との連携や定例行事を利用して近畿紫塚会を盛り上げて行きたいと思えます。

宇都宮紫塚同窓会

副会長 笹沼 収(高9回)
宇都宮紫塚同窓会(会長・青木勲)は3月10日、宇都宮市内のホテルで平成22年度の総会を開催した。

来賓として黒崎教頭先生、増淵同窓会副会長、ならびに大島東京会会長が出席された。

会の悩みは会員の高齢化が進み脱会者が多いこと、若い会員の入会が少なくことである。これを打開するためには魅力的な組織づくりが課題であると思っ



県庁紫塚同窓会

世話人 細川智彦(高39回)
始めに、東北地方太平洋沖地震により、被害された皆様、そ

のご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。皆様の、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

さて、県庁紫塚同窓会は、会員相互の連絡と親睦を図ることを目的とし、県庁に在職する大高OBで組織されています。平成22年度は、新たに5名の新規採用職員を仲間に加え、会員数は263名となりました。

22年度総会は、51名の出席を得て、7月2日に開催されました。この総会におきまして、薄井仁一氏(保健福祉部薬務課長)が会長に、高野昌之氏(県北県民センター所長)及び岩波定美氏(教育委員会事務局総務課長)が副会長に新たに選任されました。昨年度まで本会会長を務めました手塚道広氏(前監査委員事務局監査課長)と副会長を務めた宮崎一義氏(前参事兼大田原土木事務所所長)は、顧問に推挙され、承認されました。

また、議事以外では、ご多忙中にもかかわらず、森島堅二校長先生および車田孝夫紫塚同窓会長にも御出席いただき、母校の近況や同窓会の最近の活動状況について御報告いただいた他、今回初めて、大田原高校出身である天鷹酒蔵の尾崎宗範社長にも御出席いただき、いつかの間、地元大田原の銘酒に出席者全員が酔いしました。

私たちは、母校が教えてくれた「質実剛健」「質素堅実」の

教訓を胸に、県北をリードし、「元気度 日本一 栃木県」の実現を目指し、今後も努力していく所存です。

最後になりますが、母校大田原高校のますますの御発展を祈念申し上げ、近況報告とさせていただきます。

紫塚同窓会小川支部

支部長 森嶋信一(高14回)
課題は「新会員」の加入

総会は、毎年11月第2土曜日に開催されます。平成22年度は11月13日に開かれました。来賓として、森島校長先生と古澤實先生をお迎えし、支部長挨拶、来賓挨拶に続き、満80歳を迎えられた長寿者に記念品が贈呈されました。森島校長先生の挨拶を兼ねた学校報告で、大高が春の選抜甲子園で「21世紀杯」出場の候補に挙がっていることで、会場が大いに盛り上がりました。その後、会計報告が承認され総会は終了し、懇親会に移りました。

最近の懇親会では、「なぜ若い人が支部活動に参加しないのか」が話題の中心になっていました。小川支部は、卒業生の数では90名を越えますが、会費を払っている会員はわずか30名足らずです。いつも集まるメンバーが固定され、いささか新鮮味が欠けているのが実態です。そこで、お互いが顔を見ながら、「新しいメンバーが欲しいな」と言っています。

長い歴史を誇る小川支部が、今後益々発展するためには、是非、新しい会員の加入が望まれています。懇親会での結論は、是非とも皆で若い人を連れてきて、支部を盛り上げようということになっていきます。しかし、現実には、思うように行っていない。若い人は「人の集まり」や「ノミネーション」や「先輩との会話」など興味が無いのではありませんか。諦めずに今後とも努力をしてまいります。

紫塚同窓会矢板支部

支部会長 瀬尾欣右(高7回)
矢板支部は、多くの市内在住卒業生の声を受けて、平成17年1月の設立総会により組織され、設立後6年余りが経過しております。

現在の会員は、市内に在住する昭和17年・中学36回から平成6年・高校46回までの約300人で構成されており、設立後、毎年度事業報告、決算報告等を議案として定期総会が開催されています。

平成22年度は、5月22日市内のホテルを会場に、大田原高校から森島校長先生をお招きして総会が開催されました。総会終了後には、森島校長先生より、「文武両道」と題しての特別講演が行われ、ご自身の柔道に取



り組まれた経験をもとにした貴重なお話を賜り、参加した会員は熱心に耳を傾けていました。その後に行われた懇親会では、同窓生同士が一年ぶり又は数年ぶりに再会し、旧交を温めるとともに、今回から、卒業後間もない20代の若い会員が参加したこともあり、世代を超えた同窓の輪を広げての多くの語らいのもと、楽しく、かつ有意義な時間を過ごしました。

平成23年度の定期総会は5月21日に、大田原高校より森島校長先生をお招きして開催する予定で、さらに、特別講演として、日々輝学園高等学校校長長嶋晟一先生より講話を賜る予定です。

第57回十年会 最後の十年会と同期会

二本木 武(高2回)

平成22年度の紫塚同窓会十年会(第57回)は、例年通り5月と7月の2回に渡る準備会を経て8月15日午後3時から5時半まで大田原市中田原の新規会場「KATSUTAYA」で開催されました。

今年の該当年次は高2回(旧制中44回含む)、高12回、高22回、高32回、高42回、高52回で、全体会への出席者は143名、それに恩師や同窓会役員、大高職員などが加わり総計165名が参加して盛大かつ賑やかに行なわれた。

私達は昭和19年4月に旧制中学へ入学し、2年生の8月に終戦を迎え、戦後の混乱の中で教育制度の改正があり新制高校に編入されました。そのため24年3月卒業(大田原に5年間通学)が旧制中44回、25年3月卒業(6年間通学)が新制高校第2回となった。

そこで旧中44回と高2回の卒業生が一緒になって「竜北会(会長高安謙吉)」を結成し5年に1回大田原と東京が交互に幹事となり十年会の合間に「竜北会」を開催してきました。

私達にはこの十年会と「竜北会」が最後の集会になるので、

同期生には出来るだけ大勢出席して貰おうと高安会長には地元大田原地区の同期生に、私(東京幹事)は東京地区の約50名の同期生に対して電話による出席勧誘作戦を行った。

その結果、出席者は合計21名(地元8名、東京13名)となった。このうち十年会には11名が参加しました。

電話での欠席者は脳梗塞や心疾患に罹り身体不自由で歩行困難な人が多く、この人達の生の声を聞くことが出来て大変良かったが一抹の寂しさを覚えた。

「竜北会」は那須野ヶ原温泉ホテル「アオキ」で、十年会に出席した7名と現地集合の11名の合計18名(うち藤田忠君の夫人を含む)で記念写真を撮り、君島清太幹事の司会進行により午後7時から始まった。

まず高安会長から「このホテルは本日病欠の伴弘毅幹事(元大高校長)が昨年から予約していた所で、今日は飲み放題となっており時間の許す限り思う存分語り合って欲しい」と挨拶、藤田忠君の音頭で乾杯し、飲食し乍ら出席者の自己紹介に入る。

皆さんが酔う前に私から「十年会と竜北会は本日をもって解散する」と宣言し、今後の同期会は地元、東京とも希望があれば別々に開催することとした。

宴会は出席者の自己紹介に質問が飛び出すやら、若き日の思い出に話が花が咲いて宴も酣とな

り、紅一点の藤田夫人が加わって更に華やかさを増し「最後の宴会」に相応しい一夜を時間も大幅に超過し校歌を歌う暇もなく宴会場を追い出され、各部屋に移って深夜まで飲み語り合っていた。来年80才となる老人とは思えぬほど元気だ。戦中派人間と言われる所以だろうか。

一夜明けて翌日は早起きし朝湯に入り昨夜の疲れを取って各自で朝食を済ませ、健康で再会しようとして誓って自由解散した。

最後に本会の設営にご尽力を頂いた車田同窓会長はじめ森島校長と田代先生、篠崎・増測両副会長および関係職員に対し心から感謝の意を表す次第です。

校歌斉唱の感動を再び

佐藤 莞治(高12回)

第57回を数えた十年会全体会の幹事役4名は、開会1時間前の14時に市内の結婚式場に集合した。約240に配した案内状に比し参加者は30名に満たなかったが、閉塞感の強いこの時代に遠方からの参加者も多かったのが喜びだった。開会時間が迫るにつれて各年次の参加者も続々と集合し会場は再会の喜びと興奮で盛り上がっていた。定刻3時、恩師入場と同時に開会となり、同窓会長、学校長の挨拶などが粛々と進行し、高2回代表の乾杯で懇親会に入った。各年次の恩師が夫々のテーブルに着く。突然耳に入ってくる爆笑が全体会の雰囲気物語っていた。

在校した3年間を振り返ると昭和32年5月、東京・有楽町に「そごう」開店「有楽町で逢いましよう」が一世を風靡し、33年の3月、333メートルの電波塔「東京タワー」が完成、翌年4月皇太子殿下のご成婚、35年1月、新日米安全保障条約調印、同月25日、本校講堂兼体育館落成記念・創立60周年記念式典を挙げて卒業した。

懇親会が最高潮に達し、校歌斉唱となった。一同起立。若き命の感激は・・・に始まり・・・われらの志操自由清新と歌っていた時、突然熱いものが

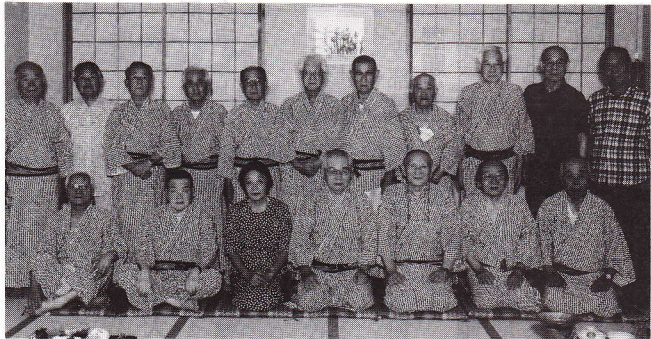
込み上げて来た。戦後の黎明期に入学し、多くの恩師朋友との出会いが自分の原点でもある。大高との絆がより強まったことを実感した。新たな10年後に再会し、校歌斉唱が叶うとしたらこれに勝る喜びはない。



同級生の絆

和泉 卓哉(高22回)

今回の十年会には、特別な意味合いが有りました。それは、同級生の森島堅二君が母校の校長先生を勤めているということ。こんな奇遇が有るでしょう。か。「彼のために」準備会に集まった理事全員の思いで、多くの同期生を集めたい。準備会に集まった理事全員の思いで、一番多い39名の出席を得られまし



龍北会 平成22年8月15日 於那須野ヶ原温泉ホテル アオキ



た。目標はもう少し多かったのですが、身内の初盆などで来られなかった仲間が多数いた結果でした。

恩師河又恭一先生を囲んで楽しい時間を過ごすことが出来ました。

会の終わり頃になりましたが、忙しくて来られないと思っていた渡辺喜美君も駆けつけてくれました。彼はご存じのように衆議院議員で、今絶好調の「みんなの党」の代表です。当日も東京でTV撮りをしての出席でした。彼の登場で同窓会もいっそう盛り上がりました。

同級生に国会議員や母校の校長、その他いろいろな立場で活躍している仲間がいる。そして

彼らに負けないように自分も頑張ろうと、新たな目標が持てる。同級生とはそういうものではないでしょうか。

場所を同級生の経営する「のんき」に変えての同期会は、更に昔話に花が咲き、多いに盛り上がりました。最後に次回同級生会を約束し、お開きとなりました。今後も同級生の絆を深めるために、会う機会を頻繁に設けたいと思います。

卒業から30年

森 明男 (高32回)

私達にとって今回の十年会は通算3度目になります。50歳を目前に控え、髪には白いものが目立つ年齢となりました。これまで連絡が取れなかった同級生の消息も少なからず確認でき、当日の十年会には33名の仲間が集いました。担任の先生方からは渡辺光男先生にご出席いただきました。あの頃とほとんどお変わりなくお元気な先生の近況なども伺いながら、高校時代の思い出話に花を咲かせました。多趣味な渡辺先生が、ギターのリサイクルをお聞きになるということを聞き、その衰えぬチャレンジ精神に私たちは感銘と刺激を受けました。

場所を「いわいや」に移した同期会には、なんと67名が参加。桜岡賢治君の名司会で近況を報告しあったり、思い出を語り合ったりしました。みんなすっきり落ち着いて職場では中堅として

活躍しているようで、時の流れをしみじみと感じました。楽しい時間もあつという間に過ぎ、名残を惜しみつつ閉会しました。次に会うのは10年後? いやいや、そんな先のことではないかも知れません。実は、今回の集いを企画・運営する上で大変尽力してくれた後藤伸一君や、矢吹典久君が新しいプロジェクトを立ち上げようとしているのです。楽しみです。

2度目の十年会

森切 亮 (高42回)

我々にとって2度目の十年会は恩師の鈴木卓雄先生、佐藤貴先生、小堤正二先生、江連一典先生をお迎えし、参加者13名と盛大とはいかなくとも和気藹々で行われました。

2つのテーブルでの恩師を囲んでの全体会では、はじめはなんとなくこちなかつた空気も話すうちに20年前の我々へと戻っていき、遂には当時のあだ名で呼び合うようになりました。思い起こせば10年前の全体会は未だ母校の第一体育館で実施しており、夏休み中にもかかわらず校舎内にいる後輩に声を掛けたり、教室を見学したりと、いろいろと様変わりをしてしまった母校を懐かしみました。

二次会は、1名が都合で全体会のみで帰りましたが、恩師江連、鈴木両先生のほか3名の同窓生が都合を繰り合わせて合流し、計17名で奈良スポーツ前の

「楽てん」で尽きぬ話に話を咲かせました。10年前鹿島で富川学年主任も迎えての会では、仕事や大学の話が話題の中心でしたが、なぜか今回の話題の中心は健康診断:お互いだいぶお腹周りが気になりだしてきた年頃ということでしょうか。

39歳という年齢で、お互い仕事や家庭に忙しい日々を過ごしているのが、今回の参加数はあまり多くありませんでした。10年後の再会を期しての散会となりましたが、次回はもっとより多くの友人と高校時代の雰囲気味わおうと思います。

恩師たちの笑顔を見て

三好 拓也 (高52回)

母校を卒業してから10年目の夏、初めての十年会に参加しました。久々に懐かしい旧友や恩師と再会でき、貴重な一日となりました。恩師とは、気恥ずかしさを感じながら、盃を酌み交わしました。

在学中の私は、優等生には遠く及ばない超平凡な生徒でした。大学進学が目標も漠然とし、前途を考え挫折や苦悩、不安の日でした。自分自身の不甲斐なさから苛立った時もありました。時には思春期独特の、大人への不満や不信感から授業中に居眠りをしたり、与えられた課題の提出を拒否したり、生意気な態度や言葉で指導に反発もしました。当時おかけした数々の無礼な言動が、脳裏に浮かびました。

しかし、恩師は笑顔で盃を酌み交わしてくださいと、当時の過ちなど少しも気にとめず、大らかな心で迎えてくれました。そのとき、私の中のモヤは一瞬にして吹き飛びました。

時として教師と生徒の間には、管理する側と、される側の立場の違いが生じるものです。恩師たちはその不満や反発を寛大に受け止め、あるべき方向に導く大切な心、姿勢を当時からお持ちでいらしたことを改めて知りました。恩師の笑顔、懐の大きさ、深さを改めて見習いたい、と素直に思いました。

話をしているうちにもう一つ言葉を思い出しました。それは「人は、最後は人格で決まる」という言葉です。職場の先輩から教えられました。私は現在、子どもたちを教える仕事をしています。先輩は、「ひとりの子どもの人生を大きく変え、あるべき方向へ導く力がある優秀な職員でも、発する言葉の裏側に人格が伴わなければ、その子どもは決してその言葉に耳を貸さないうらう。」と教えてくれました。同じように教師は「人格が伴わなければ、生徒を学問の魅力に引き込むことはできない。」ということなのかもしれません。恩師の笑顔には人を惹きつける魅力がありました。私も笑顔で子供たちに接したい。

10年後、2回目の十年会でお会いする時には今よりも成長し、笑顔で旧友たちや恩師にお会いしたいと思えます。

平成22年度部活動実績

部名	大会名	成績
陸上競技部	関東高等学校陸上競技大会 (茨城県)	生田目桂太(3年) 400m H×400m R 渡邊幸治(3年) 走幅跳, 4×100m R 他力 将(2年) 走幅跳, 4×100m R, 4×400m R 永山亮太(3年) 田代拓也(3年) 4×100m R 薄井信真(3年) 小室直人(2年) 黒田明宏(3年) 星 高志(3年) 平澤 慎(2年) 小針敬史(2年) 4×100m R
	関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会 (栃木県)	島田直人(2年) 1500m, 5000m 他力 将(2年) 走幅跳 小山俊介(1年) 走幅跳 石原泰二郎(1年) 5000m 平山英幸(1年) 砲丸投
	関東高等学校駅伝大会	猪瀬洸樹(3年) 北原駿一(2年) 高藤 隼(2年) 月井一希(2年) 赤川貴幸(2年) 島田直人(2年) 石原泰二郎(1年) 阿久津哲也(1年) 日下部綾介(1年) 萩原有貴(1年)
柔道部	関東高等学校柔道大会 (東京都)	団体戦 薄井伸和(3年) 船山拓也(3年) 村上拓也(3年) 稲村愛輝(3年) 坂上竜也(3年) 多田陽平(2年) 星 頼良(2年)
相撲部	関東高等学校相撲大会 (神奈川県) 全国高等学校総合体育大会相撲競技大会(沖縄) 第65回国民体育大会(相撲競技) (千葉県) 平成22年度全国高等学校相撲選抜大会	団体戦・個人戦 野瀬涼太(3年) 本郷 航(2年) 戸辺一紀(2年) 稲村愛輝(3年) 稲村愛輝(3年) 岸田翔太(2年) 個人戦
	関東高等学校選抜相撲大会 (栃木県)	多田陽平(2年) 戸辺一紀(2年) 岸田翔太(2年) 団体戦・個人戦 星 頼良(2年) 本郷 航(2年) 団体戦
水泳部	関東高等学校水泳競技大会 (神奈川県)	小田戸聡(3年) 50m自由形, リレー 内海悠介(2年) 1500m自由形 川瀬満丸(2年) 50m自由形, 100m自由形, リレー 山内楓磨(1年) 400m自由形, リレー 五十嵐宇史(1年) 200m自由形, 400m自由形, リレー 渡辺雄太(3年) 安永誠治(2年) 津久井文哉(2年) 箱崎 翼(2年) リレー
山岳部	全国高等学校総合体育大会登山大会 (鹿児島県)	加藤卓也(3年) 井上大輝(3年) 渡邊健吾(3年) 大草陽史(3年)
	関東高等学校登山大会	谷口和志(2年) 土屋博紀(2年) 比企史明(1年) 山口陽平(1年)
囲碁将棋	関東地区高等学校囲碁将棋選手権大会	大森飛翼(2年) 団体戦・個人戦 進藤和輝(2年) 鈴木謙志(2年) 団体戦

母校の近況
第26回85キロ強歩

第26回強歩は、平成23年3月11日におきた東日本大震災の影響により、実施することができず、かどうか心配されたが、大高の伝統ある行事であることから、各方面のご協力を得て、実施することができました。準備期間

が少ない中、協力をしてくださった皆様方にこの場を借りて感謝申し上げます。さて、第26回強歩は、昨年、途中中止となった悔しさを晴らすかのように、大快晴の中実施されました。澄み渡る青空の下、強歩委員長からの檄、また、生徒会長から、「がんばろう日本」の旗をかかげての檄により、意気揚々とスタートしました。日中は、30度を超えるかという暑

さとの戦い、夜の冷え込みとの戦いとなりました。救護所には、水分不足が原因なのか、足の痙攣を訴えるものが多かったように思われました。ただ、足のまめに悩まされている生徒が少なかったのは、「まめ対策」が浸透してきている成果であると思われる。実施日が、金、土になったこともあり、例年になく保護者の皆様がこの協力が得られ、ゴール時には、正門を埋め尽く

すほど大勢の方に見守られての完歩となりました。熱中症が心配され、完歩率が低下することも懸念されましたが、例年同様、約92%の完歩率でした。生徒たちのがんばりにエールを送りたいと思います。



平成22年度寒稽古

平成22年度寒稽古は平成23年1月17日(月)～21日(金)の5日間に行われて行われた。種目は柔道、剣道、弓道、耐寒マラソンに分かれており、早朝6時から始まる。今年も640名の生徒が参加した。三カ年皆勤者は138名(58.5%)には賞状とトロフィーが贈られた。最終日の1月21日には納会が行われ、保護者の協力により豚汁がふるまわれた。

平成22年度卒業式

平成23年3月1日(火)、平成22年度卒業式が、本校第一体育館において厳粛かつ盛大に挙行された。森島堅二校長より卒業生の藤田晃が代表として卒業証書が授与され、晴れて卒業した235名が紫塚同窓会の会員として新たに入会することとなった。

来賓祝辞の中で車田孝夫同窓会長は卒業式を「過去の課業の完成を記念する」と同時に「これからの生涯における新たな時期の開始を祝う」日であるとして「真理と正義とが実現される

時代の到来を目指して活躍することを切に願う」と饒の言葉を生徒会長磯飛周平の「後戻りせずゆつくりでもいいから一歩一歩しっかりと進んでいってください。」との送辞の言葉をうけ、卒業生代表の前生徒会長小田戸聡が大田原高校で培った「強い心」を「胸に秘め、自分の信じた道を一心不乱に突き進んでいきたい」と決意を述べた。

新しく大田原高校を飛び立つ後輩たちの卒業を心から祝福するとともに、今後のますますの精進と活躍を期待したい。

平成23年度入学式

平成23年4月7日(木)、平成23年度第66回入学式が挙行された。入学許可の各担任の呼名に対する新入生の返事は、大震災の暗いムードを吹き飛ばすかのような元氣溢れるもので、新しい生活の始まりに大いなる希望と意気込みを感じられる清々しいものであった。

入学許可後の式辞で森島堅二学校長は、新入生240名の入学を祝福するとともに、大正時代の思想家・後藤静香の「第一歩」という詩の中の「目標がその日その日を支配する」という言葉をその詩とともにを紹介し、常に高い目標を意識してこれからの毎日を過ごしてほしいという願いを新入生たちに託した。

また、平山利秋PTA会長も祝福の言葉とともに、本校の良い点を新入生に紹介しながら、新しい環境に飛び込んでいく新入生に心強い励ましの言葉とアドバイスを贈った。

さらに、「入学生宣誓」では代表の川口健太郎君が、入学できた喜びと本校の学校生活に対する抱負を力強く誓った。

元氣溢れる返事に大いなる希望とエネルギーを感じさせてくれた新入生が、この学び舎で良き仲間巡りに巡り会い、大高の良き伝統をしっかりと受け継ぎ、人間性豊かな心身ともに強い人間へと成長していくことを見守ってゆきたい。

第109回創立記念式典 記念講演会・芸術鑑賞会

平成23年4月19日水曜日、本校第一体育館において、109回目となる創立記念式典が開かれた。森島校長、車田同窓会長から、日本の厳しい現状において大高の伝統を受け継ぎながらどのような道を歩むべきか、その将来を見据えた温かい挨拶を賜り、在校生による活気ある校歌と共に、厳粛な雰囲気の中で式典は終了した。

式典後の講演会では、高30回卒で、東京大学大学院農学生命科学研究科教授として活躍をされている溝口勝氏を招いての記念講演が行われた。

溝口氏は本校を卒業後、東京大学教養学部理学科Ⅱ類に進学され、三重大学の助教等を経て、現在の東京大学農学生命科学研究科教授をされている。その現在に至るまでの過程を当時の心情を交えながら話して戴いた。また、「農と情報 風評被害をなくせるか」という演題で、現在研究をされている内容をとても分かり易く説明して戴き、その研究と東日本大震災後の農業に対してどのように貢献できるかというタイムリーな話題に、会場全体が引き込まれていった。講演の後には質問も活発に飛び交い、大変有意義な講演会となった。

午後は芸術鑑賞として、NHK交響楽団トッペンバーによるアンサンブルコンサートが行われ、華麗な演奏とユーモア溢れるトークを披露して戴いた。音楽に精通していない生徒にも馴染みのある選曲で、会場全体が大いに盛り上がった。

平成22年度入試 主要大学の合格者数

国公立大	22年	21年	20年	私立大	22年	21年	20年
東京	0	0	1	早稲田	16 (2)	11	9 (2)
京都	1 (1)	1	1 (1)	慶應義塾	8 (6)	4	4 (1)
東京工業	1	2	0	上智	4	4 (1)	1
東京外国語	1	0	0	国際基督教	1	0	0
一橋	1	0	3	明治	27 (3)	21 (1)	21 (1)
大阪	1 (1)	0	1	法政	27 (3)	7 (1)	17
名古屋	1	0	1	立教	8 (1)	4	4
東北	12 (2)	9	12	立命館	13 (1)	10	7
北海道	4	2	3	東京理科	16 (2)	26	17
筑波	2	1	2	中央	18 (2)	14 (1)	23 (3)
千葉	4	4	6	青山学院	15	6	12
宇都宮	10 (2)	15 (1)	17 (1)	日本	49 (5)	56 (4)	45 (1)
金沢	0	1	4	専修	13 (1)	14 (1)	13
埼玉	8	7 (1)	8	芝浦工業	14 (1)	16	12 (1)
新潟	9	6	7 (1)	東海	13	17	16
横浜国立	3	0	1	東洋	16 (1)	19 (1)	19
東京学芸	4 (1)	1 (1)	5	神奈川	14 (1)	6	11
静岡	4	1	1	国際医療福祉	12 (1)	12 (1)	17
山形	6 (1)	3 (1)	3	駒沢	5	6	6
茨城	8	5 (1)	8	大東文化	0	3	4
首都大東京	2	3	1	成蹊	5 (1)	9 (1)	2
現役国公立合格者	109	108	122	自治医科	0	1	0
() 内は過年度卒の内数				現役私立大計	363	348	352

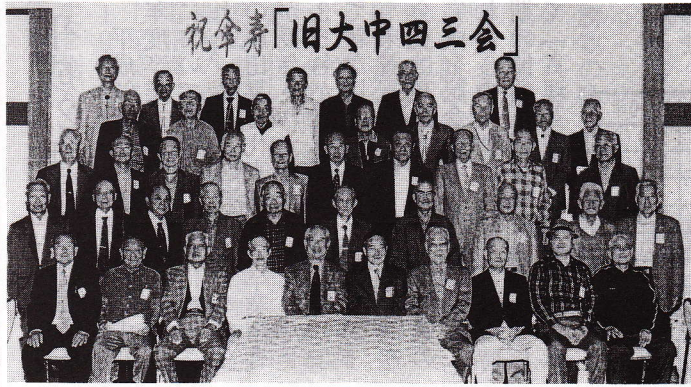


大中四三會

同級会実行委員 菊池武幸

「前途は洋々満ちたり光輝」の聲に送られて学窓を巣立つてから60有余年。齢80(傘寿)に達しました。「大中四三會」は平成22年10月15日、某ホテルにおいて総会を開き、「会の解散」と「会が保管する現預金の最終処分」を決議しました。

出席会員45名(存命者全部で150名の内30%の出席)、満場一致で賛成され、最終的な残金18,000円を母校の紫塚奨学団へ寄附しました。
母校の益々の発展と、後輩諸君の活躍を期待しています。



お礼のことば

紫塚奨学団理事長 森島堅二

大中43回卒の皆様
この度は貴重なご寄附を賜り心から御礼申し上げます。奨学金の貸与と優良生徒の顕彰に使わせていただきます。益々お元気に過ごされますことを、心からご祈念申し上げます。

平成二十二年度
財団法人

紫塚奨学団報告

係教諭 川又勝寿

本紫塚奨学団は、大正7年、多数の同窓生から寄附された財産、1千850円を基金として創設されました。事業の内容は、奨学金の貸与と優良生徒の顕彰であり、基本財産が生み出す利子を主な事業資金とするもの

財団法人紫塚奨学団 平成22年度事業報告

1 事業の状況

(1) 奨学金の貸与

大学生 2名 月額 30,000円
新規採用者 2名 一括 500,000円

(2) 奨学団賞授与

① 顕彰者

・ 桐原 崇彰 慶応大学理工学部合格

② 3ヶ年皆勤者 71名に対して記念品を授与

2 寄付金に関する事項

・ 井上成紀 (現評議員・高12回) 様	60,000円
・ 檜山富美子様	1,000,000円
・ 大林茂俊 (高21回) 様	50,000円
・ 金澤正邦 (高15回) 様	30,000円
・ 菊池静太郎 (中36回) 様	500,000円
・ 大中43回・大高1回 (43会) 様	189,090円
・ 平成22年度卒業生	235,000円
・ 篠崎勝則 (現評議員・高14回) 様	30,000円
合計	2,094,040円

です。基本財産の充実については、創設後からの篤志寄付に加えて、昭和57年度に迎えた学校創立80周年記念事業の主たる事業として取り上げられ、同窓会の熱心なご協力をいただき飛躍的に増額されました。その後も同窓会をはじめ多数の同窓生からのご寄付をいただいております。

平成14年度からは、寄付金と返還金を貸与金に直接活用することにより新規採用者を2名、貸与月額を3万円といたしました。しかしながら、財団の運営について再度の見直しを行った結果、次のような方針で運営していくことになりました。

① 寄付金を基本財産に繰り入れる。
② 平成20年度から当面の間は、新規採用者2名に対して、入学時に一括して50万円を貸与する。同窓生の皆様には、従来より奨学団へのご支援をいただいておりますが、今後ともなお一層

のご理解とご支援をいただければ幸いです。
郵便局振替口座番号
0035014111356
口座名 財団法人紫塚奨学団

活躍する若手同窓生

都道府県対抗駅伝

優勝チームの一員として

順天堂大・長距離主将

的場亮太 (高60回)

平成23年1月23日開催の第16回都道府県対抗男子駅伝大会において、栃木県チームの一員として優勝できた事は大変うれい事です。良いメンバーに恵まれ、幸せです。私を選んで下さった栃木県陸上競技協会の方々や、応援して下さい下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

大会における個人的な反省点はある走りをして、後続に牽きついてあげたかった。自分の力不足を痛感しました。

この経験を生かし大学生活最後となる箱根駅伝では、(伝統ある順天堂大学・長距離主将として)何がなんでも結果を残したいと思います。

大田原高校の後輩たちには、勉強と部活の両立で大変だと思えますが、両立できてこそ大高生だと思つので頑張つてほしいと思います。OBとして皆さんの活躍を期待しています。

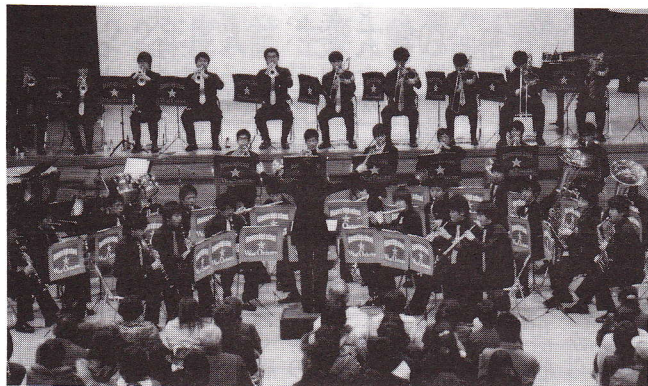
また、今回、私を取り上げて頂いた紫塚同窓会に感謝の気持ちでいっぱいです。同窓会から



はいいつも多大な支援をいただき、大高陸上競技部発展にご尽力いただきました。私が高校生の時も本当にお世話になりました。ありがとうございます。
最後にこの場をお借りして、私の恩師であり、順天堂大学へと送り出していた川口晴実先生に御礼を申し上げます。ありがとうございます。先生ありがとうございます。
これからも学校関係の方々や同窓会の皆さんに感動を与えられるような走りをしたと思いますので、変わらぬ応援をお願いします。
(編集担当から追記)
的場亮太君は、大高時代は2年生のとき500mで大阪インターハイに、3年生のときは500mで佐賀インターハイ、秋田国体に出場。更に都道府県対抗駅伝では4区を走った経歴を持っています。今後の活躍に期待しましょう。

第20回定期演奏会

兼 被災地支援
チャリティコンサート



『本番を約2週間後に控えた3月11日。東北地方を中心とした東日本は、未曾有の巨大地震に襲われた。ここ大田原でも「震度6強」を記録。体験したことのない大きく長い揺れ。五感で感じる全てが私たちが恐怖に陥れた。加えて福島原発事故により、多くの方々が非難生活を余儀なくされている。定期演奏会を予定していたハーモニーホールも被害を受けた。一時は定期演奏会を開催すべきか否か

の選択に迫られたが、「音楽の力で出来ることを何かしよう」との結論を出した」
これは、主催した音楽部からのメッセージです。

母校の第一体育館を会場に「被災地支援のためにチャリティコンサート」が開かれた。新しく出来あがった「応援団旗」の紹介や、部活の合間に応援に駆けつけた仲間もいて（音響効果は別として）実りある節目の演奏会となった。感動をありがたう。創立百十周年記念事業で楽器の補充もなされる。更なる発展を期待したい。（編集担当）

大震災を越えて

音楽部合唱班OB

矢部礼拓（高60回）

あの日、私は都内にある大学の近くにいた。何事もない日常に突然襲いかかった大地震。左右に大きく揺れる建物、路頭に迷う夥しい人々。大学の建物も被害を受けた。そこに飛び込んだ「震度6強 大田原市」の情報。頭の中が真っ白になった。幸いにも翌日には親類の車で帰郷でき、実家の被害もごく軽微であった。しかし、何よりも楽しみにしていた定期演奏会はどうなるのか。同期や諸先輩、そして今の大高合唱部を担っている後輩達とともに歌える喜びはどうなるのか。



震災から一週間ほど過ぎた日、練習や会場変更についての連絡が後輩から届いた。開催できることに一安心したものの、会場となった体育館は響きが悪く合唱には向かない。果たして歌の力をいかに発揮できるものか、不安がよぎった。

本番当日、会場には大勢のOBや現役生が集まった。旧交を温めながら、着々と準備が進む。皆、自分たちの音楽を作れることに活き活きとしていた。

午後1時、開場。体育館にたくさんのお客さんが流れ込む。見る間に満席となり、急遽座席を増設するほどの盛況ぶりであった。そして迎えた本番。それまでの不安も杞憂に終わり、私も

大高山岳部に期待する

神島仁誓（高24回）

皆と楽しく歌うことができた。吹奏楽部の演奏や応援団とのコラボ企画も大いに盛り上がった。大高音楽部の成長を実感できた。まさに記念すべき一日となった。
.....
当日、会場で義援金をお寄せくださった皆様、ありがとうございました。

今年も山岳部が県予選会で優勝して、8月に青森で開催されるインターハイに出場することになりました。山岳部発足時から顧問をつとめて山行に同行した者として、うれしい限りであります。4年連続の出場であり、昨年の6位入賞に引き続きこの上位入賞が期待されると思います。

山岳部の生い立ちを紹介しますと、山を愛する有志が昭和61（1986）年5月から同好会として活動を続け、同年11月21日の生徒総会で部に昇格して山岳部が発足しました。（詳しくは「大高九十年誌」参照）従ってまだ四半世紀ほどの歴史しかない新しい部で、発足当時の部員は今年42歳になります。発足以降はほぼ毎年のようにインターハイや関東大会に出場しており、特に平成11年から14年には4年連続でインターハイに出場しました。U字工事のボケ役で活躍

中の益子卓郎君も平成8年の関東大会に出場して、交流会では関東8都県の選手の前でパフォーマンスを披露していました。多くの方から「山岳の全国大会や関東大会があるそうだが、順位はどうやって決めるの」というご質問をいただきます。山で競技をして順位を決めるのは確かに不思議な話に聞こえますね。いわゆる競技登山ですから、高体連登山部策定の明確な審査基準があつて、それに従って順位を決めることとなります。体力・装備・天気図作成・気象知識・読図・計画書・記録書・救急処置法等々の項目があつて、審査員が審査をします。誤解を恐れずに簡潔に言えば、山でのサバイバルの能力が試されることとなります。でも競技登山というのは、数ある登山形態の中の特殊なものであつて、普段は夏山から冬山まで、ハイキングから岩登りまで、オールラウンドな山登りを山岳部の生徒たちは謳歌しております。

最後に是非とも書いておきたいことがあります。実は戦後数年間は「初代」山岳部が存在したことであります。「黒羽文化」第28号（平成20年3月発行）の藤田謙三先輩の文からも明らかであります。（詳しくは「大高百年誌」参照）特に「初代」山岳部に関する写真や資料などをお持ちの方がおられましたら、是非ご一報ください。

第64回春季県高校野球大会

52年ぶり優勝

大会を振り返って

未曾有の大震災で自粛ムード高まる中、母校野球部はハツラツとしたプレーで、粘り強く戦い、見事優勝した。準々決勝の矢板中央戦では初回到り6点先取されたが、あせることなく得点を積み重ね11対7で勝利。準決勝の対國學院栃木戦、決勝の文勢芸大付属戦では長打力、守備力、投手力とチーム力で見事撃破。県営球場での準決勝、決勝戦には車田会長もスタンドから熱い声援を送っていた。多くの同窓生の中には、U字工事益子卓郎君の姿も。(編集担当)

勝利の陰に努力あり

阿久津和司(高1回)

(野球部OB・長年母校野球部監督を務められた)

今回の春季県下大会優勝は、野球部はもとより大高関係者一同に喜びと感激をもたらした。

これは厳冬の中、監督、部長、コーチの熱い指導に選手たちが耐え抜いた賜物です。特に母校野球部OBで早稲田大学野球部出身の吉田賢治さんの声援下がる指導に、よく部員たちが精進し応えた成果です。創部以来、100有余年。伝統に新たな歴史を刻んだ紫塚の若人よ。いざ征かん、甲子園に。

52年ぶり王座 快進撃はまだ続く

破竹! 大田原 粘る文星付振り切る

満点の「春」



春季県高校野球
第64回春季県高校野球大会兼第33回春季関東地区高校野球大会県予選最終日は6日、県営球場で決勝を行い、大田原が4-2で文星付を退け、52年ぶり2度目の優勝を飾った。

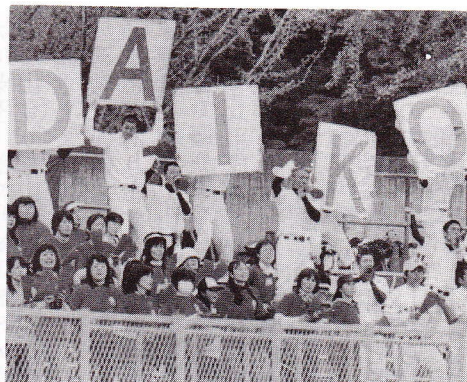
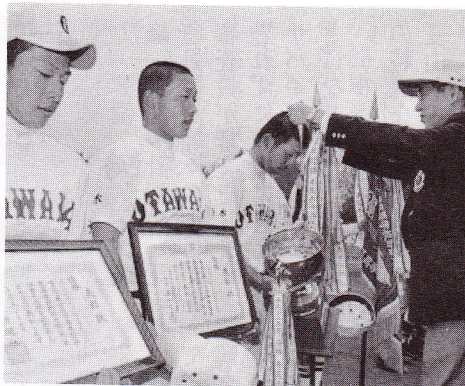
強打同士の対決となった頂上決戦は、投手の出来が明暗を分けた。

大田原は渡辺大智が要所を締めて2失点完投、2併殺、無失策と守備もバックアップした。打線は三回一死一、三塁、大谷の犠飛で先制。鈴木大成、清水亮平の連打

関東大会でも旋風を

植竹二郎(高12回)

52年前、春の県大会優勝時の2塁手です。当時のシーンが沸々と思い出されました。野球を思いっきり楽しんでください。東京向島在住なので朝早くから応援にかけつけます。OTAWARAの胸のマークが、グラウンド狭しと躍動されることを祈ります。



『52年前の新聞』

大高、宇工破り初優勝

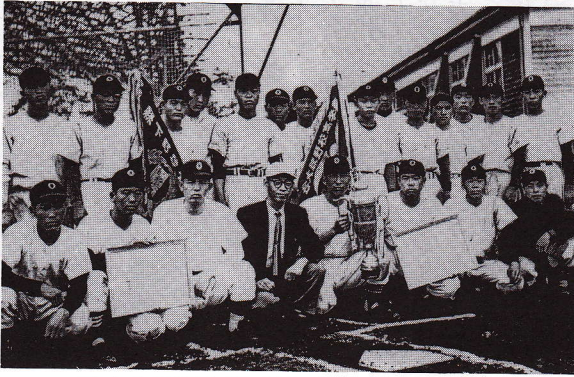
小川好投、2安打に封じる

高校野球

春の県立高校野球最盛日、大高の間に決勝戦を行い、宇工と対戦し、大高が初優勝した。

Score table: 大高 00010200003, 宇工 000000000000

大高の間に決勝戦を行い、宇工と対戦し、大高が初優勝した。...



県立大田原高野球部 春の高校野球優勝

関東大会での主な記録 大正11年(1922年) 関東大会(夏の大会)に出場した県立大田原中学野球部...

昭和34年(1959年) 春季県下大会決勝戦で宇都宮工業を破り初優勝。...

夢でない甲子園出場

埼玉県羽生市 田代義計 (高13回)

5月5日、大高が春の高校野球栃木県大会で強豪文星を下し優勝した。...

春の県大会では試合毎にチーム力が上がると感じました。2回戦、宇工にサヨナラ勝ちを挙げた。...

私は卒業以来、多くの大高野球を観戦しておりますが、退屈のこの5年間は大高野球全試合観戦を目標に球場通いをしていました。...

私が家3度目の関東大会 磯 茂宏(高34回) 幸運なことには私が磯家は、3度目の関東大会出場になった。

力なくして成功なしの揭示がありました。正しく文武両道の真骨頂。...

OBの熱い声援も励みに

多くの方ご存知の関谷俊郎さん(高30回)。母校野球部OBで、明治大学野球部で活躍され、現在、川崎の麻生ジャイアンツ...

麻生ジャイアンツは、元巨人軍の桑田真澄選手が会長を務めるボーイズリーグ(中学生の公式野球リーグ)のチーム。...

以前の野球は根性論的練習法であったが、そこから脱却し科学的練習メニューや体のメンテナンスを取り入れるようになり、...

21世紀枠、あと一步及ばず大変残念だった。しかし、その悔しさをバネに厳しい練習に耐え、春の県下大会で悲願の優勝を成し遂げた。...

甲子園に連れて行って 板山篤史(高63回) (平成23年3月卒。昨年のエース。)

最初は、叔父の磯四四雄(高12回)が春の県下大会で初優勝時の遊撃手。...

喜びを分かち合い

伊藤 宏(高50回) (平成9年夏の県下大会ベスト4)

春季県下大会優勝おめでとうございます。平成9年当時のチームメイトと、みんなで自分の事の様に喜びを分かち合いました。...

喜びを分かち合い

伊藤 宏(高50回) (平成9年夏の県下大会ベスト4)

春季県下大会優勝おめでとうございます。平成9年当時のチームメイトと、みんなで自分の事の様に喜びを分かち合いました。...

甲子園に連れて行って 板山篤史(高63回) (平成23年3月卒。昨年のエース。)

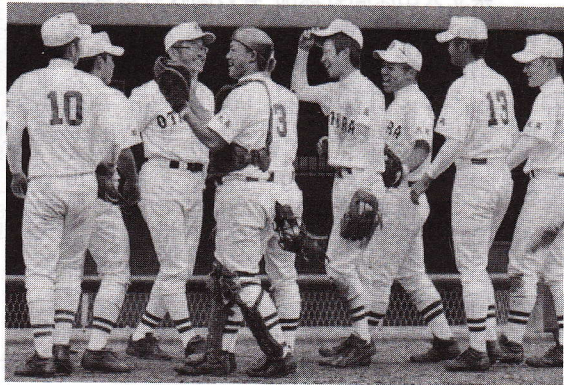
「一」にこだわら

大田原高等学校野球部
監督 川又勝寿(高37回)

同窓生の皆様には日頃より多大なるご支援をいただき、本当に有難うございます。

平成23年は、大田原高校野球部にとって大きな落胆からのスタートとなりました。全国選抜大会の「21世紀枠」の東京・関東代表に選出されながらも落選してしまい、チーム、学校のみならず同窓生・地域の方々にも失望感を味わわせてしまう結果となつてしまいました。選手たちのモチベーションもあがらない時期もありました。しかし、高校野球の原点を考え、自分たちは何をなすべきかを真剣に考えたとき、やはり目指すものは「一」でした。No.1(優勝)、一勝、一日、一球、一瞬など、「一」にこだわることが大切であると気付いたのでした。その一つ一つの集積が今回の春季大会優勝という形になって現れたのではないかと思います。今回のことでは、多くの方々よりお祝いや激励をいただきありがとうございます。この場をお借りして御礼を述べさせていただきますと存じます。誠に有難うございます。

も温かいご声援を直しくお願いいたします。



”夢”を掴め大高球児

大高野球部コーチ
吉田憲治(高18回)

那須風が吹き荒れる厳冬の練習に耐えた今年の大高球児は、逞しく成長しました。21世紀枠でのセンバツ出場こそ最終選考で逃がしたものの、52年ぶりに春の県大会を制した健闘ぶりは、十分賞賛に値するものでした。私が、八紫会(野球部OB会)から現役部員たちの練習の手伝い役を仰せつかつて4シーズン。孫ほどの年齢差に戸惑いながらのスタートでしたが、同じOB会の増淵(旧姓渡辺)義信、蓮見人志さん(ともに高35回)ともに大高球児の”夢”を叶えるためのお手伝いを努めております。



今年のチームには、1年生時からレギュラーを掴んだ3年生を中心に個性的なプレーヤーが多く、試合経験も豊かで県内外の強豪校との対戦にも臆することなく、互角に戦える戦力を十分備えています。夏の大会に向けての課題は、何といっても”投手力”のもう一段底上げに尽きます。投手の頭数だけは一応揃っていますが、炎天下での連戦に耐え、強豪校と互角以上に戦うには強い精神力を備えたタフな投手の育成如何にかかっております。3人の3年生投手の中から柱となるタフな投手が現れたとき、大高球児の”夢”が叶うものと確信しております。大高そして紫塚同窓会の悲願達成に向けて、川又監督そして大高球児に対し、微力ながら精一杯のお手伝いをさせていただきます。紫塚同窓会の皆様方、あたたかいご声援とご支援を心からお願い申し上げます。

紫塚同窓東京会

会長 大島 栄 寿(高6回)

平成23年度総会、懇親会 11月4日(金) 午後6時 品川プリンスホテル

首都圏の一人でも気軽に参加できる楽しい懇親会、母校愛大高絆を再現!

事務局 猪股 秀章(高21回) 電話 03-3586-5586

FAX 03-3583-0535

URL <http://www2.ocn.ne.jp/~purple/>

介護用品のレンタル・販売

(株) まつや薬局

松本 寿広(高20回) 松本 隆史(高48回)

■処方せん調剤 クスリのご相談、介護のご相談お気軽にどうぞ
■介護用品全般 ■保険調剤薬局 ☎(0287) 22-2502(代)

大田原市城山1丁目5-31 FAX兼 (0287) 23-5040

第76回総会

近畿紫塚会

平成23年度総会は10月22日(土)

会長 八木沢 武雄(高10回)

連絡先 〒639-1013

奈良県大和郡山市朝日町1-54
大和郡山アーバンコンフォート414号

事務局 坂 和 恒 夫(高11回)

TEL 0743-54-1526

宇都宮紫塚同窓会

会長 青木 勲(高9回)

事務局 〒320-0833

宇都宮市不動前1-3-14

北関東総合警備保障(株)内

TEL 028-639-0308

FAX 028-638-8396

京都地所株式会社

代表取締役

石 戸 芳 雄(高8回)

〒329-2712

那須塩原市下永田1-1012-14

TEL 0287-39-7070

大高応援団と新応援団旗

顧問 野沢 剛

本校応援団は、年誌によれば大正時代に始まり、時代によってその隆盛は様々であったようですが、途絶えることなく代々引き継がれてきました。数年前、少し低調傾向にあった応援活動を憂いた生徒が一念発起、大高に応援団を強く根付かせようと試行錯誤を繰り返して、組織化を図りました。他校の応援団に学んだり、東京六大学応援団を意識したりと、生徒なりにいろいろ研究してきました。その甲斐あって年々少しずつ盛んになっている印象です。またそうした活動が徐々に校内に定着し、自ら応援団を希望する生徒も増えてきました。応援委員会でも、常時40名近くの応援団を編成することができております。近年の野球部の活躍とも相まって、本校応援団も少しずつ外部にも知られるようになりました。

そして昨年夏、下野新聞でその活動が紹介されました。記事をごらんになった応援団OBで元応援団長の方が、当時を懐かしみ、後輩応援団の活動の助けになればと多額の寄付を下さいました。応援団という組織は、一見派手に見えて実は備品調達にもなかなか苦労しているものなのです。経験者ならではの心遣いには、後輩を見守るあたたいかいを感じます。寄付の運用をいろいろと考えた結果、応援団

旗の新調に決まりました。従来の団旗がやや小ぶりであったため、いつかは大型の団旗をつくりたいと願っておりました。しかし応援団旗というものは、備品の中でも破格のもので、学用品という組織ではなかなか手に入られるものではありません。今回の寄付は、氏の意向と本団の永年の願いを叶えるのに最良のものであります。

旗製作を日本橋の専門店に依頼し、昨年12月に完成しました。生地は正絹、色は京都の友禅染で、スクールカラーである橙色を地に校章を染め抜きました。縦3m、横4.5mの大物です。竿は堅い檜製で黒漆塗り、長さが5m。堂々たるものです。3月には新応援団披露式を行い全校生徒にお披露目しました。

「この団旗に相応しい立派な応援団となるよう精進しなければならぬ」とは現応援団長の決意です。

この春、本校野球部が選抜21世紀枠候補に選ばれました。その最終選考報告の際にも新応援団旗を掲げ、吉報を待ちました。結果は残念でありましたが、念願の甲子園出場の間際だった機会に新団旗が立ち会えたことは偶然とはいえ感慨深いものがありました。

そして公式戦で初めて掲げましたのが、先日春の関東大会出場をかけた県大会準決勝戦でした。結果は見事に大勝、関東出場を決め、つづく決勝戦を制し52年ぶりの優勝。元来縁起

物とされる応援団旗ですが、初めての勝負に立会い、勝ち運以上の慶事をつけることができただけの感動です。

5月14日、千葉県で開催されました関東大会におきまして応援団もスタンドで応援しました。県外において応援を実施することとは、全国高校駅伝以来のこととなりました。大舞台に相応しい応援となるよう、そして本校の勝利を願って懸命に応援しました。応援に参加した37名の団員が、団旗と同じ橙色のハチマキと腕章を身につけ大団旗の下

に集い、声を嗷らして応援する姿は、男子校らしさにあふれ、誇らしいものがあります。試合は惜しくも敗れてしまいましたが、この経験が夏の甲子園での応援に活かされるものと思います。

現在は、夏の応援に向けて準備を始めました。「甲子園で応援すること」を夢に、そして「他校に負けぬ立派な応援をする」とを目標とし、頑張っております。まだまだ未熟な応援団ですが、温かく見守っていただけたら、と思います。ご理解ご支援のほどよろしくお願いたします。

ナインの活躍に夢託す

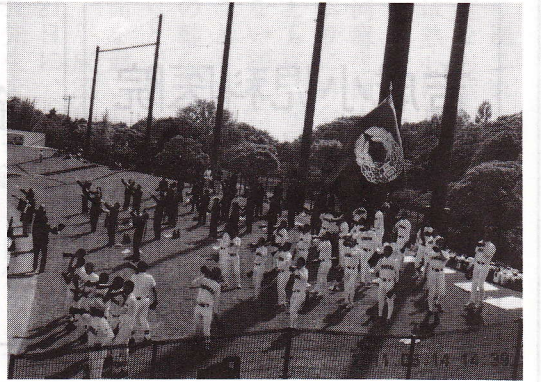
「かつ飛ばせー大高、大高！」
 厚みになると、突如、校舎3階の張り廊下から地鳴りのようなエールと太鼓の音が響き渡る。
 声の主は字々に鉢巻姿の応援団。スポーツに打ち込む者同士は、はつ、精いっぱい声で鼓舞する。この夏、柔道部を引退した村上拓也団長は、途絶えた自らの夢も野球部に託す。

大正期から記録の残る大田原高応援団。本年度は生徒役員と全学年計18クラスから選抜した応援委員、有志生徒の40人が参加。校外で唯一最大の舞台となる夏の選手権に向け、6月初旬か

ら練習に打ち込んでい連つと感じたが、八回は5点を返して逆転。一点が入るたびに体が軽くなり、楽しんで仕方なかった。(中島弘貴副団長。青雲寮に敗れた準々決勝も、最後の1球まであきらめる団員はいなかった。)



「質素堅実」の精神。伝統の応援団が、この夏も



ナインの背中をpushす。(永馬理絵)



10 高校野球選手権栃木大会

5 魅せられて

昨年度卒業生が残っていた字ラン20着も加勢する。受け継がれる

猪股司法書士事務所
 司法書士 猪 股 秀 章
 (高21回)
 紫塚同窓東京会事務局長

〒106-0041
 東京都港区麻布台3丁目1番5号 電話 03-3583-8657
 日ノ樹ビル401号 FAX 03-3583-0583

建築家からの提案「人と環境にやさしい建物」
 有限会社 和 泉 設 計

代表取締役 和 泉 卓 哉 (昭和45年)
 〒329-2703
 栃木県那須塩原市槻沢322番9
 TEL 0287-37-4871
 FAX 0287-37-4872

安心、安全、美味

 登録販売元 肉の金澤
 那須野ポーク 代表取締役 金 澤 駿 一
 (商標登録5176626号) (高11回)

〒325-0052 那須塩原市中央町本店 TEL 0287 (63) 4129
 FAX 0287 (63) 8161
 弥生町支店 TEL 0287 (63) 5673
<http://www.nikunokanazawa.com>

池島酒造株式会社
 那須の美酒
 代表取締役
 池 嶋 英 哲 (高20回)
 池 嶋 佑 介 (高52回)
 〒324-0036
 大田原市下石上1227
 TEL 0287 (29) 0011
 題字 長 嶋 石 城 (高8回)

ALSOX
 ホームセキュリティα
 北関東総合警備保障

代表取締役社長 青 木 勲 (高9回)
 本社：宇都宮市不動前1-3-14
 TEL：028-639-0301

お客様の大切な時間を演出します
 KATSUTAYA
 勝田屋記念会館

〒324-0062
 大田原市中田原2082-3
 TEL 0287-23-4165 FAX 23-4188
<http://www.katsutaya.com>

NASU
 株式会社 NASU設計

代表取締役 一級建築士 篠 崎 勝 則 (高14回)
 本社 〒324-0005
 栃木県大田原市練貫364番地67
 TEL. 0287-23-7861
 FAX. 0287-23-7819
 E-mail nasuarc@gaea.ocn.ne.jp

郷土の発展と共に、一世紀 since 1884

総合建設業
 那須土木株式会社

那須土木株式会社一級建築士事務所
 本社/栃木県大田原市中央1丁目13番10号
 TEL 0287 (23) 5678(代) FAX 0287 (23) 0355
 URL <http://www.nasudokk.co.jp>
 代表取締役 玉 木 茂 (高20回)
 取締役総務部長 宇 山 洋 一 (高19回)
 総務課長 桑 名 知 久 (高37回)
 総務課主任 郡 司 康 雄 (高45回)
 住宅事業部住宅建築課長代理 矢 吹 博 司 (高46回)

吉成小児科医院

医師 吉成仁見 (高22回)
 〒324-0055
 栃木県大田原市新富町2-1-22
 電話 (0287) 22-2412
 FAX (0287) 24-0607

鈴木歯科医院

鈴木 和 雄 (中39回)
 〒324-0241
 大田原市黒羽向町74
 TEL 0287-54-0700



小林内科外科医院

小林 伸 久 (高33回)
 〒324-0028
 大田原市富士見1-1606-265
 TEL 0287-23-8870

車田 医院

車田 孝夫 (高3回卒)
車田 宏之 (高32回卒)

栃木県大田原市大豆田457-24
電話 0287 (54) 0062

社会保険労務士法人 ソウマ・高根事務所

社会保険労務士
相馬 誠一 (商3回)

〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町1-11
中野ビル5階 TEL03-3251-5141

内科・小児科・循環器内科 医療法人 金澤 医院

理事長 金澤 正邦 (高15回)
事務長 金澤 政史 (高47回)

〒325-0052
栃木県那須塩原市中央町1-8
TEL 0287(62)0029
FAX 0287(64)2590

医療法人社団 亮仁会 那須中央病院

理事長 臼井 亮平 (中38回)

〒324-0036 栃木県大田原市下石上1453番地
TEL 0287-29-2121 FAX 0287-29-2501
E-mail:nasuchuoh@mtg.biglobe.ne.jp

セレモニーホール あぶらや

有限会社 油屋 商店

吉川 恵造 (高7回)
吉川 秀之 (高34回)

〒324-0051 栃木県大田原市山の手1丁目1番22号
(本店) TEL 0287-22-2219 FAX 0287-23-7863
(ホール) TEL 0287-24-2411 FAX 0287-24-2412



O. A. P. E.

ISO-9001・ISO-14001 認証取得

総合設備業

大橋総設工業株式会社

代表取締役 大橋 保 (高29回)
取締役会長 大橋 照男 (中43回)

〒324-0057 栃木県大田原市住吉町2丁目4番24号
TEL:0287-23-3100(代) FAX:0287-23-3102

「上杉文化と本場米沢牛」
小野川温泉/ホテルの里 小野川温泉

登府屋旅館

代表取締役社長 遠藤 章作 (高16回)
(旧名 高梨)

〒993-0076 山形県米沢市小野川町2493
TEL 0238-32-2611 メール tofuya@tofuya.jp
FAX 0238-32-2613 URL www.tofuya.jp

鈴の宿

検索



医療法人 大田原厚生会 室井 病院

理事長 室井 尚武
院長 室井 秀太 (高44回)
副院長 室井 秀太 (高44回)
理事 室井 宏文 (高48回)

〒324-0042 栃木県大田原市末広1丁目2番5号
TEL 0287-23-6622
FAX 0287-23-7825

宗教法人 大田山光真寺

住職 黒田 俊雄 (中40回)

〒324-0051 栃木県大田原市山の手2-11-14
TEL (0287) 22-2033

株式会社 テクノ産業

代表取締役
秋間 忍 (高16回)



〒325-0033
栃木県那須塩原市埼玉371-8
TEL 0287-62-6010
FAX 0287-62-8998
E-mail:techno@nasuinfo.or.jp
http://www.tecowl.co.jp

(株)田中建築事務所

一級建築士 日本建築家協会会員
阿久津 賢次 (高16回)

本社
〒108-0074
東京都港区高輪2-16-45 高輪中山ビル
TEL 03-5420-2431 FAX 03-5420-2461

三九会

(さんきゅうかい) (高16回)
2007年1月発足以来、東京
と大田原を中心に親睦会を開催。

藤田宏和 電話 0287-29-0902
岡本之良 電話 048-442-4364

有限会社 **木屋油店**

代表取締役 菊池 眞司 (高17回)

〒324-0241
大田原市黒羽向町1136
TEL 0287-54-0863

中国料理 **応竜**

田代 誠一 (高18回)
田代 尚之 (高47回)

大田原市城山2-2-12 (消防署近く)
☎0287-22-2801 (代) FAX 23-8383

寿司・幕の内・割烹仕出し
有限会社 **まえむろ**

代表取締役 渡辺 繁治
(高19回)

TEL 0287 (22) 6849



(株) **奈良スポーツ**

代表取締役 奈良 靖久 (高12回)

大田原市紫塚2-2609-97
TEL 0287-22-2670
http://www.narasp.com

司法書士法人 **片柳事務所**

簡裁訴訟代理人 第206005号
宇都宮地方裁判所 民事調停員
大田原簡易裁判所 民事調停員
宇都宮地方裁判所 司法委員
大田原簡易裁判所 司法委員
代表社員 司法書士

片柳 洋 (高22回)

〒329-2711
栃木県那須塩原市石林224番地6
(大田原西那須野街道一本松ぼっぼ通り沿い)
TEL0287-37-5500 FAX0287-36-8672



医療法人 博友会

原眼科医院
HARA EYE CLINIC

院長 **原 裕** (高20回)

〒324-0042
大田原市末広1丁目5番27号
(大田原市農協ヨコ)
TEL 0287 (24) 0011

カンタン・キレイ・色あせない
FUJICOLORデジカメプリント

写真のことなら何でも、
当店におまかせください。

カメラの山口

山口 紀之 (高36回)

大田原市山の手1-7-1
TEL 0287-23-4166

割烹 **石山**

〒325-0056
那須塩原市本町5-5
TEL 0287-62-0128
FAX 0287-62-1076

代表取締役 **石山 桂子**

季節の上生菓子
伏見屋菓子店

伏見 功一 (高1回)
伏見 雅志 (高30回)

フシミヤ
TEL 0287-23-2438
フシミヤ
FAX 0287-24-2438

有限会社 **高松自動車販売**

代表取締役 高松 勝 (高22回)

〒324-0018
大田原市上奥沢85-5
TEL 0287-23-3818

(有) **ナルミヤスポーツ**

成宮 正人 (高44回)

大田原市中央2丁目16番地15号
TEL (0287) 23-6668
FAX (0287) 23-6437

すきやき・しゃぶしゃぶ・とんかつ

岡 繁

大小宴会承ります (料理3,000より)

岡野 繁雄 (高23回)

大田原市山の手1-3-9
TEL 0287-22-2474
FAX 0287-22-2718



タイル工事・石 工事・リフォーム工事

代表取締役社長 **橋本 徹** (高32回)

益子 範明 (高32回) 荒牧 量 (高32回)

山崎 洋 (高33回) 橋本 悟 (高41回)

渡辺 毅 (高45回) 八木沢 豊 (高48回)

本社/大田原市南金丸2000 TEL 0287-24-0010(代)
東京営業所/北区赤羽台3-2-20 高尾ビル1F TEL 03-5963-6685
http://www.hasimo.co.jp

各種印刷

飯村印刷

飯村 忠雄 (中42回)

飯村 通 (高28回)

TEL 0287-22-2016 (代)
FAX 0287-23-4055

きれいな写真は、
ミハル写真館

〒324-0051
大田原市山の手2-6-33
TEL0287(22) 2566
(消防署前)

藤田山円光寺

住職 神島 仁誓 (高24回)
〒329-2755
那須塩原市西原町4-5
TEL 0287-36-0476
FAX 0287-36-2965

鎌田 医院

鎌田美樹雄(高24回)
〒324-0035
大田原市薄葉2252
TEL 0287-29-2055

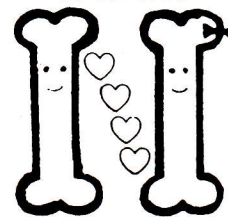
DI 住んでよし心ゆたかな 大田原

———— D I グループ ————

(有)藤田材木店 株式会社大一不動産

栃木県大田原市美原3丁目3266-1 栃木県大田原市紫塚1丁目14-13
TEL 0287(22) 2617 TEL 0287(22) 5119
代表取締役 藤田 昭彦(高26回) 代表取締役 小坂橋 博 幸

NISHIDA **西田整形外科医院**



整形外科・リハビリテーション科
整形外科専門医
院長 西田 三郎(高30回)
大田原女子高校そば
〒324-0053
栃木県大田原市元町1丁目9-18
TEL 0287-20-3100

ORTHOPAEDIC

各種自動車販売・民間車検・石油類販売

(有)小浦モータース

小浦 道夫(高27回)
小浦 敏夫(高31回)

本社 大田原市佐久山2208番地
佐久山SS TEL 0287(28) 0016
実取SS TEL 0287(28) 0480
車検センター TEL 0287(36) 5338

エクソンモービル有限公司
代理店

(有)浅井 礦油

代表取締役 浅井 元
(高29回)

〒324-0057
栃木県大田原市住吉町1-14-20
TEL 0287(23) 3366(代)

野崎皮膚科

野崎 重之(高30回)

〒324-0042
大田原市末広3-3004-2
TEL 0287(24) 6136

日本整形外科学会専門医
医療法人**阿久津整形外科**

(リウマチ科・
リハビリテーション科)

院長 阿久津 政司 (高37回)

〒329-2727
栃木県那須塩原市永田町3-16
(西那須野駅前)
TEL 0287(36) 3639(代)



井上眼科医院

井上 直紀(高43回)
井上 順(高44回)
井上 亮(高49回)

〒324-0051 大田原市山の手1-2-11
☎ 0287-22-2514

セイワ薬局

星 和明(高30回)

〒324-0042
大田原市末広2-8-27
TEL 0287(22) 2628

吉成 歯科 医院

吉成 慶司(高23回)

〒324-0234 大田原市前田145
TEL 0287-54-2600

ExxonMobil エクソンモービル代理店

(有)吉田屋商店

代表取締役 森 英夫(高30回)

那須塩原市西栄町1-8 本社 36-0013 ICSS 36-4661
電話(西那須野) 0287 国道SS 36-0817 BPSS 36-1493

百十周年記念事業に関する

中間報告

神島仁誓(高24回)

来る平成24(2012)年に母校は創立110周年を迎えることになり...

1. これまでの経過

昨年9月21日に準備会を開催し、会則・組織・記念事業内容について検討しました...

2. 記念事業の財源

百周年の時のように、趣意書等を準備しての広範な募金活動は行わず...

3. 事業内容

記念事業としては、吹奏楽部

の楽器購入・教室へのプロジェクターとスクリーン設置・野球グラウンド整備機器購入を考慮...

同窓生各位のご協力なしには事業を遂行していくことはできません...

4. お願い

同窓生各位のご協力なしには事業を遂行していくことはできません...

第10回紫塚GFクラブ ゴルフコンペ参加者募集

- 開催日 平成23年10月16日(日)
開催場所 千成ゴルフクラブ 大田原市大神633
募集人員 20組、80人
競技方法 18ホール ペリア方式での団体競技及び個人競技
参加費 3,000円(賞品及びパーティー費)
プレー費 10,000円(昼食付) キャディ付 3,000円増し
表彰 団体競技の部、個人競技の部に優勝カップあり。
参加賞、その他沢山賞品を用意しています。
参加申込、問い合わせ先 紫塚GFクラブ事務局
大田原市財政課長 田村正幸(高24回) TEL 0287-23-8797

御 礼

後援会長 平山利秋

この度、母校野球部の関東大会出場に際し、多くの方々からご厚志を賜り誠にありがとうございました...

第58回 十年会のお知らせ

- 日時 平成23年8月15日(月) 15:00開始
場所 結婚式場 KATSUTAYA (大田原市中田原2082-3 TEL0287-23-4165)
該当年次 併中1・高3、高13、高23、高33、高43、高53
※今年から該当年次以外でも参加を受け付けることになりました。
十年会該当年次以外で参加希望者は、平成23年7月末日までに紫塚同窓会事務局までお申し込みください。
Fax 申し込みのみ受け付けます。Fax 0287-23-9691
【卒業年度、氏名、住所、電話番号】を必ず記入して下さい。
会費、5,000円は当日会場にご持参下さい。

同窓会関係の

文書発送について

紫塚同窓会の組織の基盤は各卒業年次であり、同窓会に関する必要事項や会務の処理は、同窓会役員である各卒業年次の常任理事および理事に、会長が委嘱する仕組みになっています...

紫塚同窓会の事務局は母校内にあり、大高の職員が、本務の傍ら同窓会業務を担当していますが、事務量も多く、特に文書の発送は600通を超え、大変ご負担をおかけしています...

そこで、事務局担当教員の負担軽減と経費の観点から、文書の発送と処理についての実施案を、次の通り常任理事会に提案致しました...

1. 一昨年、年次ごとに常任理事、理事の見直しを行い、また、常任理事の中から代表として「代表常任理事」1名を選出していただきましたが、文書は、各年次の代表常任理事に発送する。
2. 各年次においては連絡網を整備し、文書は代表常任理事を中心に適切な方法で常任理事、理事に周知し、会務を処理する。
このことについては検討課題として、次回の常任理事会においてご意見をいただくことになっておりますので、趣旨ご理解の上ご協力くださるようよろしくお願い申し上げます。

編集後記

会報の編集作業に入った頃、未曾有の大震災に見舞われまし。テレビや新聞から入る情報や、近隣の様子を目にし、言葉が出なくなりしました。従来どおりの会報を発行して良いか、日々悩みました。

そのような中、3月末の母校音楽部の定期演奏会で、高校生のひたむきなパワーに感動。そして、野球部の52年ぶりの快挙。一部の人から、野球部だけなぜ大騒ぎするのだ。他の部活も、勉強も頑張っているのに、との声が届きました。山岳部も連続して全国大会に出場し、6位入賞を果たしています。

思い出したのは、昭和40年、石炭産業の斜陽化で暗かった街を、一気に明るくしてくれた三池工業高校野球部の活躍です。大高野球部の明るくハツラツとしたプレーに、震災後の暗い気持ちをしばし忘れた方も多いと思います。本紙面は、特集号的に野球を取り上げましたが、他の部活OBにも登場願いました。ホームページも「質素堅実版」としてスタートさせ、タイムリーな情報発信を心がけます。併せて広報委員会も動き出しました。会員の皆様のご指導・ご協力を、よろしくお願い致します。
会報担当・増淵忠行